

THE NMUN KOBE TIMES



Kobe City University of Foreign Studies

模擬国連世界大使節団、 紅葉に迎えられる



金閣寺をバックに記念撮影する海外からの参加者

真っ赤な紅葉、そして黄色い銀杏の葉のカーテンと絨毯に囲まれながら、250人の代表と教職員が古都・京都、復興都市・広島、そしてその近隣にある瀬戸内海対岸の神の島・宮島で日本の秋を満喫した。本学の学生運営委員による11月21日のツアーで、模擬国連世界大会(NMUN)参加者約100人が京都へ、また約150人が広島と宮島を訪れた。22日には参加者は行き先を交代する。各グループは今夏からこのために準備していた学生ボランティアガイド50人と共に訪れた。

京都

京都へ向かう使節のグループは、ホテル



広島の被爆者、小倉桂子さんの証言に聞き入る大使ら

のあるポートアイランドから古都までバスで2時間で到着した。彼らは京都駅から約2キロ離れた伏見区にある伏見稻荷大社を最初に訪れた。伏見稻荷は京都南部の重要な神道の神社であり、本殿から通りを二つ挟んだところに建ち並ぶ何千もの朱色の鳥居で有名である。鳥居は約1300年前に建てられた神社の中でも名所となっており、代表らは70メートルの道を鳥居に沿って歩いた。伏見稻荷大社は五穀、特に米の神である稻荷が奉納された日本全国何千もの神社の総本社である。稻荷は五穀豊穣、商売繁昌、家内安全の神として祭られており、多くの人に崇められている。狐は稻荷の使いだと考えられており、神社のあちこちに狐の像を見ることができる。

(2頁に続く)

(1頁から続く)

代表とガイドらはその後伏見稻荷大社から北に約3キロ離れた京都の東部にある独立した寺、清水寺に向かった。

清水寺はもともと778年に建てられ、戦争や火事によって何度も焼かれ、今の建物は1633年に徳川家第三代目将軍・徳川家光の命令によって建てられた。山から突き出る、13メートルの柱で支えられた清水の舞台に代表らは上り、そこから、紅葉が点在する京都の街の素晴らしい景色を堪能した湯豆腐をメインとした伝統的な日本料理を昼食に



食べた後、代表者たちは、室町時代の將軍であった足利義満によって600年以上前に建てられた金閣寺へ足を運んだ。彼らは漆塗りの壁が金箔で覆われている樓閣を見た。それは1950年に放火によって前の建物が焼け落ちた後、1955年に再建されたものである。学生ボランティアガイドは、近代日本文学の傑作と考えられている三島由紀夫の「金閣寺」のように、文学作品のいくつかがその事件を基にしているということを説明した。

清水寺と金閣寺は昔の京都



の歴史的建造物の一部であり、1994年にユネスコ世界遺産に認定された。その中には京都市内やその周辺の寺院13ヶ所、神社3ヶ所、城1ヶ所の計17ヶ所が含まれている。

広島

広島へ向かう使節のグループはホテルから新幹線の乗り場のある新神戸駅へ移動した。広島駅に到着すると、バスで西へ1時間ほどかけて廿日市へ向かった。そこから瀬戸内海をフェリーで渡り、宮島に到着した。宮島の正式名称は「厳島」であり、これは太陽神の娘の名前から取

ったものである。ここは宮城県にある松島、京都府にある天橋立に次ぐ、日本の3大景色の1つである。1800人ほどが住む小さい町だが、毎年300万人以上がこの宮島を訪れている。



代表とボランティアガイドらが宮島にたどり着くと、昔から地元の人々に神の使いだと信じられているたくさんの鹿に出迎えられた。そして、朱色の漆で塗られた神社の廊下を歩いて通った。代表者はボランティア学生から厳島神社での参拝の仕方を教わり、本殿から海へと突き出ている戸外の舞台から海に浮かぶ鳥居を見学した。その後、商店街を通って宮島特有の木でできた大きな

杓文字など、日本独特の様々な物を見物した。

(3頁に続く)

(2頁から続く)

昼食後、フェリーとバスで広島市へ移動した。広島平和記念公園に着くと、代表らは1945年8月6日に起こった悲劇の数少ない証拠の1つとして残る原爆ドームへと歩いた。広島平和記念公園は原爆の爆心地の近くにある、かつては住宅街だった場所に1954年につくられた。

代表たちは平和の灯、平和の鐘、原爆の子の像などの記念碑を見て回った。それから広島平和記念資料館に入り、三輪車に乗って遊んでいる時に



原爆に遭って亡くなった3歳の男の子のその三輪車や黒焦げのご飯の入った弁当箱などの遺品を目にした。また、8歳のときに原爆を経験し、平和活動家として活躍する79歳の小倉桂子さんの体験談を聞いた。



ECOSOCのベトナムを代表する、フィリピンのアジア・パシフィック大学のジョアキン・ミゲル・シルヴァ・アルカンタラさん(20歳)は、京都の寺や神社に魅了されたと話した。それらは昨年彼が訪れた東京近辺にある箱根という別の観光地を思い出させた。「寺や神社が山のそばに建てられているというのが気に入りました。紅葉を楽しむこともできますから」と彼は言った。



22日には代表と教員は行き先を変える。前日に広島へ行った人は京都へ、京都へ行った人は広島へ行くのである。

NMUNでは会議が始まる前に主催国の文化視察を行うのが伝統になっている。訪れる場所はたいていその国もしくは一般社会にとって重要な歴史的価値のある場所である。



例えば、NMUNが昨年チェコ共和国のオロモウツで開催された際には、代表らは第二次世界大戦中のホロコーストの地であったアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所を訪れた。



写真：新幹線で広島に向かう海外からの代表ら



日本人のおもてなしという誇り

京都への文化視察のボランティアとして、西尾芽衣さんはガイドとして日本人の良さ、特に“おもてなし”について代表たちと共有したいと思っていた。最初は日本の文化についてよく知らなかつたが、それについて勉強して、京都を再訪すると、前に訪れたときには気づかなかつた、歴史や建造物の意味についての知識を持って寺院を訪れる面白さを発見した。それが代表らとその知識を共有したいと考えた理由の一つである。例えば、お参りなど、神社や寺を訪れる際のマナーやエチケットについて知る手助けをすることも大事だと言う。西尾さんは場所の事実や歴史についてのみを教えるのではなく、文化という視点から日本人の価値観を共有することがガイドにとって重要だと考えている。中国語学科1年生である西尾さんは、英語でのコミュニケーションに少し不安を感じているが、何が大事であるかは分かっている。「最も大事なのは楽しむこと。もちろん、私には責任があります。でも、もし私がそこに訪れる人ならガイドにも楽しんでもらいたいのです。だから私はこの機会を楽しみたいと思っています。」

広島を通して考える戦争

英米学科3年生の鈴木麻美さんは広島文化視察の副リーダーである。鈴木さんはNMUNに何らかの形で関わりたいと思っていたが、最初は広島には特別な興味を持っていなかった。副リーダーにならないかと誘われたときに即答することができなかつた。それでも、これほど大きなイベントに今後関わる機会はないかもしれないと思い、引き受けることにした。「緊張していますが、楽しみです」と鈴木さんは述べた。彼女は第二次世界大戦で米軍の空襲で焼けた栃木県宇都宮市に生まれた。この歴史的背景により、彼女の小学校の平和学習の中では戦争の悲劇を重要視していたため、鈴木さんは戦争に対する恐怖心を持っていた。それ以来、彼女は戦争と向き合うことができなかつた。副リーダーになってから、空襲に苦しんだ人々のことについて考えるようになった。「これまで戦争と向き合うことができませんでしたが、広島について学んでいく中で、戦争についての自分の考えを整理することができました。」



思いがけない機会がもたらした達成感

本学の英米学科3年生である大道由佳さんは人と話すことが好きだったため、学生ボランティアに応募した。しかし、本番一週間前になつてスタッフ不足を補うために神戸ツアーガイドをしてくれないかと頼まれた。会議後に行われるダンスパーティのボランティアとしてすでに仕事を任されていたため、ガイドは彼女にとって思いがけない依頼であり、準備をしなければならなくなつた。ツアー中、英語ではなおさら他の人に考えを伝えることの難しさや重要性に気づいた。大道さんは参加者と神戸の魅力を共有できることに少なくとも満足している。参加者の一人に、海の無い国に住んでいるため海を見ることができただけで嬉しい、くつろぐことができた、と言われて感動したという。



日本の城

高野七海

北海道から沖縄まで、日本には何百という城が存在します。そのほとんどが織田信長、豊臣秀吉、そして徳川家康などの将軍が日本を支配していた頃の15世紀や16世紀に建てられたものです。中には第2次世界大戦後に建て替えられたものや、建てられた当時のままのものもあります。

日本には12の城が当時のまま残っています。青森県の弘前城、長野県の松本城、愛知県の大山城、福井県の丸岡城、滋賀県の彦根城、兵庫県の姫路城、島根県の松江城、岡山県の備中松山城、香川県の丸亀城、高知県の高知城、愛媛県の伊予松山城と宇和島城です。

姫路城は日本で最も観光客の多い城で、世界遺産の一つに指定されています。その美しい白石の外見から、白サギ城とも呼ばれています。その建物と周りの美しさは、どの四季においても観光客を魅了するものです。驚くべきことに、姫路城はその時代に建てられたものとしては珍しく災害や戦争によって重大な被害を全く受けませんでした。姫路は第2次世界大戦時の重要な軍基地であったため、空襲のターゲットの一つでした。この城に爆弾が落ちたこともありましたが、奇跡的に爆発せず、被害を受けませんでした。



城に入るには、不法侵入者が主塔にたどり着かないようにするための防御用の様々なからくりをぐり抜ける必要があります。入り口はとても小さく、一度に一人しか通れません。これらの賢いからくりによつて観光客にとっても、そこにたどり着くことは難しくなっています。

姫路市は50万人が住む、兵庫県で2番目に大きな街です。城に加えて、他の歴史的な場所やご当地料理が多くの観光客を魅了しています。大阪や京都からは約1時間、三宮からは約40分かかります。新幹線を使うと新大阪からは約30分、岡山からは約20分で行くことができ、神戸近辺の主要な街から行くにはとても便利となっています。



所在地:〒670-0012 兵庫県姫路市本町68番地

TEL: 079-285-1149 (姫路城管理事務所)

FAX: 079-222-6050



開城時間 午前9時から午後4時(閉門午後5時)

・4月27日から8月31日までは午前9時から午後5時(閉門午後6時)

ENTRY FEE

大人(18歳以上): 1000円

小人(小中高生): 300円

・姫路城・好古園共通券 大人: 1040円、小人: 360円

参考サイト:<http://www.tabian.com/tiikibetu/kinki/hyogo/himejijo/mame.html>



photo from www.pakutaso.com

東前彩美

Coffee！日本人はコーヒーが大好きで、神戸にはカフェがたくさんあり、仕事や勉強をしたり、友達と会話をしたりする人で賑わっています。上島珈琲店(中:400円)、西村珈琲(530円)、スターbucks(トールサイズ:320円)、タリーズ(トールサイズ:370円)、ドトール(中:270円)などがあります。これらのカフェは夜11時頃まで営業しているところもあり、食事もできます。手頃な値段でコーヒーを飲みたければ、マクドナルドの100円コーヒー(小:100円、中:150円)か、コンビニエンスストアのコーヒーを試してみてはどうでしょうか。ほとんどのコンビニにはコーヒーメーカーがあり、新鮮なコーヒー(小:100円、中:150円)を買うことができます。新鮮なコーヒーを入れてもらう時間が無ければ、缶コーヒーを注文すると良いでしょう。約140～250円で様々なこくのあるコーヒーに出会うことができます。素晴らしい香りと味を楽しむことができます。昼食には神戸のパン屋に立ち寄ってみてください。多くの店がパンとコーヒーを楽しめる場所を用意しています。朝から温かい、心地よい香りと共にパンやケーキ類、サンドウイッチを提供しています。近年、カフェの種類は増加しているため、私たちには様々な選択肢があります。

参考文献:

朝日新聞出版『それでもコーヒーを楽しむための100の知恵』

ジョン・スタインベック「朝めし」

コーヒーは様々な方法で抽出されます。日本にはコーヒーのながい文化的歴史があります。

日本にはカフェの長い歴史があります。コーヒーは江戸時代に日本に入ってきた。最初のコーヒーはオランダ商館のある長崎の出島に導入されました。日本の最初のカフェは東京の可否茶館です。明治時代には多くのカフェが開店し、当時はカフェーと呼ばれ、知識人がそこで過ごしました。カフェーパウリスタは1913年に水野龍が開き、宮沢賢治や北原白秋などの知識人だけでなく一般人にも本物のブラジルコーヒーを提供しました。このカフェは東京の銀座で今でもコーヒーを提供しています。コーヒーはすぐに人気となりましたが、1944年に日本政府が贅沢品とみなし、コーヒーは禁止されました。政府は人々に質素な生活を強いました。コーヒーは戦後、1950年に再び登場しました。1950年代には様々な種類のカフェが作られました。ライブやジャズレコードのあるジャズカフェ、クラシック音楽の流れる茶室、ピアノやアコーディオンに合わせて客が歌うことのできるコーヒー店、クラブの一種のようなゴーゴーカフェ。1960年代と1970年代には純喫茶の人気が出ました。それぞれのマスターが客に一番のコーヒーを淹れ、コーヒー好きの人には行きつけがありました。1970年代と1980年代にはほとんどのカフェに無料のマッチ箱があり、宣伝として地図付きの独自のデザインが施していました。日本人はそのマッチ箱を集めており、デザインが珍しく、ユニークなマッチ箱は特に値打ちがあるとされました。